

安部日鋼工業が新工法

高速道床版替え、30%時短

プレストレストコンクリート(PC)製造の安部日鋼工業(岐阜市六条大溝、井手口哲朗社長)は、高速道路の橋梁の床版取り替え工事で、現場の作業時間を約30%短縮できる新工法を東急建設(東京)と共同開発した。高速道路では、老朽化したコンクリート床版を耐久性が高いコンクリートに交換する需要が旺盛となっている。新工法で工期が短縮できるメリットや技術力をPRして、東日本、中日本、西日本の高速道路3社からの継続的な受注を目指す。

(松浦健司)

床版は安部日鋼工業の岐阜本巢工場(本巢市)で製造したプレキャストPCで、PCはびび割れを生じさせない構造にしたコンクリート。高速道路の大規模

更新、修繕事業では、プレキャストPC床版を現場に運び、既存の床版を撤去しながら順次、PC床版に置き換えていく方法が取られている。

新工法は二つのPC床版を一体化させるための接合

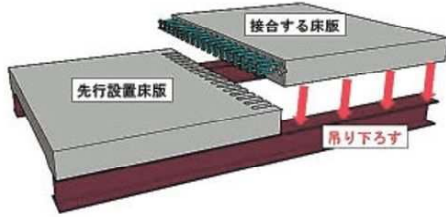
工法で、名称は「TAP-ONEジョイント」。鉄筋と定着プレートが突き出た床版をクレーンでつり上げ、先に設置した床版の溝に落とし込むように設置する。2nd程度の溝に無収縮モルタルを流し込んで固めている。ループ状の鉄筋を重ね合せてコンクリートを詰める従来の「ループ継手工法」と違い、コンクリートの作業がないため、省力化につながるという。

高速道路総合技術研究所(東京)が定めた接合部の疲労耐久性の試験を実施し、100年相当の耐用年数があることを確認した。

安部日鋼工業の担当者は「1日当たりのPC床版の設置枚数は従来は3枚から4枚だったが、新工法なら6枚から7枚。少なくとも1・5倍は多く設置でき、工期短縮につながる」と話す。



プレキャストのプレストレストコンクリート床版を用いた施工試験。本巢市曾井中島、安部日鋼工業岐阜本巢工場



TAP-ONEジョイントの施工方法